

# 研究資料 蒲州大雲寺涅槃變碑像造像記

## はじめに

先に「蒲州大雲寺涅槃變碑像に関する考察」『仏教藝術』三二五、二〇一二年）として、表題作に関する考察を発表したが、規定字数の関係上、その造像記の全文を掲載することができなかったため、ここに改めて造像記の全文と訓読を掲げておきたい。

なお、本造像記については、胡聘之『山右石刻叢編』巻五に全文が掲載されるほか、ソニア・リー氏が全文の釈文を付し、一部英語訳を施している (Sonya S Lee, *SURVIVING NIRVANA Death of the Buddha in Chinese Visual Culture*, HONG KONG UNIVERSITY PRESS, 2010)。  
また、魯迅「大雲寺弥勒重閣碑校記」『魯迅全集一〇 集外集拾遺補編』学修研究社、一九八六年、所収、初出一九二五年を参照。これらに加え、現地調査で得た写真資料、中国国家図書館HPで公開されている拓本データとの対校作業をもとに適宜改めた。便宜上、幾つかの段落に分けて掲載する。

## 一．造像記翻刻

大雲寺弥勒重閣碑

前校書郎杜登撰 聖徳□□頌

前□□□縣荆師善書

蓋□、神功不可得之於有□、□□窮之於□境。法本無法、出三界之幽□、空則不□、□□乘□妙理。其精□□、無極難筌、天物云云、歸根莫曉。聖人乃分身百億、授手三千。提寶藏而退開、運香輪而不息、□彌□主、長懸正法之堂、兜率天中、□兮神居之□。故能調意馬□心猿。上士勤行慈悲、勸其無住。下人大勞方便、開其與欲。玉豪流彩、遠燭千光、金□遺文、旁羅十誦。大矣哉□覺、不可得而言也。亦天人之奧乎。

彌勒重閣者、古老相傳之、故廢白禪寺也。自雲龍代革、木火徂遷、瞻棟宇而烟荒、對階墀而霧積、空梁落構、唯餘鸞雀之居、古壁頽形、無復神仙之氣。

國家受天地之明命、契神道之財成。徵曆數而坐巖廊、用元亨而登寓縣。淳和作化、不忘軒頊之年。揖讓為尊、自得唐虞之代。聖神皇帝、以斷鼈立極、執象開元、應黃神而□慶、□翠媯而受籙。深明因果、方崇釋氏之門、弘濟艱難、自得輪王之稱。東西南北、遠扇玄風、宇宙山川、高揚佛日。雖如來上聖、自安切利之天、而彌勒下生、或濟闡浮之境。時既□矣、道又行焉。莫不功窮妙□、□盡虔心。

燕室神堂、咸有情而仰首、築園精舍、並勤誠而報德。豈可使生平福宇、而今荒毀者哉。

田中健一

時有神部太平寺上座義通、河東猗氏人也。糠糝軒冕、景行頭陁、心惟江水之傍、涕下城門之側。以為、商人請□、□解充基、童子歸心、猶能捧玉。遂乃勵茲雅俗、建此尊容。同脩初地之因、共樹生天之業。有經營之志、六趣歸依、聞誘誨之言、一時廻向。

復有佛弟子王行師等、並勝緣重德、善救資生。爰率親朋、同開捨施。爾其已居顯敞。川原秀麗。汾河德水、周王出鼎之卿。姑射名山、唐帝乘鸞之地。信禪居之形勝、福地之良緣者也。若乃徵梓匠、選環材。居士勞其七返、國人悅其三利。牽牛獻石、即使成塔、駟馬馱錢、方來布地。平臨汗漫、直上峇巖。圖丹出秀之奇□、刻鳳雕龍之逸變。危擔曲砌、懸夜月而暴星河。鏤檻文軒、栢雲根而臨雨足。疑□□之創造、若□子之乘來。五鳳軒而不逮、八龍翥而何仰。金人列坐、見光彩於樓中、玉女巡遊、動容輝於閣上。雖復畧□雙掌壞寶七重、梵帝諸天金銀一柱。豈同年而語哉。

又有祥芝數莖、□於重木。□□□□、橫棟宇而初開。車馬之形、指康莊而欲動。色有四時之變、香多三秀之奇、雖涵德池中、何階等級、甘泉宮裏、未足禎祥、自非有感必通、至誠斯名、則何以□茲□ 聖造、旁契神心者焉。然以道樹斯攀、法橋斯構。瞿曇屬意、蓮花開宴坐之居、妙淨歸心、香水灑經行之處。

又於碑上造涅槃變一鋪。多羅樹下、徒有生成、偈行宮中、終歸寂滅。俾夫色空為患、明假說於三身、愛縛成迷、示忘情於四大。

鄉望文林郎王元敬、將仕郎孫愐、右玉鈴衛護都府左果毅、都尉上柱國陽善機、承務郎守寧戎府兵曹寧軍趙仁叡等、山河秀氣、唐魏高風、合素朴之光輝、保黃裳之元吉。並捫心淨域、方捐有待之身、滌慮玄門、共坐無憂之樹。怯風霜之峻節、恐迫塵容、託龍鳳之高碑、長懸寶偈。雖復八禪寥廓、永離風火之滅。三變湏申、坐息高深之權。

其詞曰、空有為道、天人成德。蘊在無明、感乎不惻。化周萬類、功超八極。幽贊生靈、發揮玄默。隧緣則契、有應能通。五苦心遠、三明道隆。駟馳未息、誘誨何窮。載因明主、廣扇玄風。於赫我后、重安神器。龍出河圖、龜開洛字。道符得一、心融不二。既啓千年、還疏十地。爰有緇服、願答皇恩。勸率凡士、經營法門。同超永夜、共闢重昏。報德何所、勤誠有言。遠近桑梓、周環茅宅。不恡刀銼、無論金帛。廻向靈宇、追思勝迹。築室開基、雕金鏤碧。平臨烟雨、上出雲雷。地則仙化、人為子來。金扉日映、珠綴星開。繡栢龍躍、文甍鳳廻。已畢神功、旋徵福祐。偃蹇重楸、參差三秀。道契生成、仁資宇宙。心識方絕、因緣必就。旁稽匠石、遠□雕鏹。永出三界、長歸四禪。岸流為谷、海變成田。天長地久、永立碑焉。

天授二年二月二十四日、准制置為大雲寺、至三年正月十八日、准 制廻換額為仁壽寺。

同造碑人 趙志遠 楊文達 陳師有 楊行表 楊泉 劉舍郎 雲騎尉胡公 誓 張師昱 馮福仁 前府史太原王行師 前大州府兵曹參軍趙嘉實 錄事 樊元超 景龍感 隊正張志誓 陪戎副尉景仁軌 寧戎府參軍趙仁叡 姚行 褒 楊安都 騎都尉王文端 荊待徵 前府史張諍思 陪戎副尉滑思廉 上 護軍楊君武 張思玄 隊正景法意 文林郎王元敬 陪戎校尉楊武貴 隊正 范玄慶 文林郎周師廊 景師智 雲騎尉李懷慶 荊智言 上騎都尉張元楷 王玄昉 景思敬 景思徵 王行冲 張公策 楊伏度 帳內趙仁湊 程獻 否 陳法成 景仁則 景智表 已上人等、並為七代父母及見存家□ □ 恭為亡父母 趙釗為亡父及見存母 楊景休為見存父母 孫行敏為見存父母 當寺修造功德主僧思忠

## 二 訓読

蓋し□、神功は之を有□に得べからず、之を□境に窮む□□。法は本と無法、三界の幽□を出で、空は則ち不空、□乗□妙理を□。其の精は□□として、無極空り難く、天物は云云として、歸根曉かにすること莫し。聖人は乃ち身を百億に分け、手を三千に授く。寶藏を提げて遐かに開き、香輪を運して息まず。□彌□主、長く正法之堂を懸け、兜率天の中、□神居の□を□。故に能く意馬を調え心緩を□。上士は勤めて慈悲を行い、其の無住を勤む。下人は大いに方便を勞い、其の與欲を開く。玉豪の流彩、遠く千光を燭し、金□遺文、旁く十誦を羅く。大いなるかな□覺。得て言うべからず。亦た天人の奥なるか。

彌勒重閣なる者は、古老之を相傳う、故との癡せらるる白禪寺なり。雲龍代革し、木火徂き遷りてより、棟宇を瞻れば烟のごとく荒れ、階墀に對せば霧のごとく積み、空梁は構を落し、唯だ鶯雀の居を餘し、古壁は形を頽し、復た神仙之氣無し。

國家は天地の明命を受け、神道の財成に契ふ。歷數を徴して而して巖廊に坐し、元亨を用いて而して寓縣に登る。淳和化を作して、軒項の年を忘れず。揖讓尊と為して、自ら唐虞の代を得。聖神皇帝は、以て鼈を斷じ極を立て、象を執りて元を開き、黃神に應じて慶を□、翠鳩を□して録を受く。深く因果を明らかにし、方に釋氏の門を崇い、弘く艱難を濟い、自ら輪王の稱を得。東西南北、遠く玄風を扇ぎ、宇宙山川、高く佛日を揚ぐ。如來は上聖にして、自ら切利の天に安んずと雖も、彌勒は下生し、或は閻浮の境を濟う。時既に□矣、道又行わる。功は妙□を窮め、□は虔心を盡さざる莫し。

燕室神堂は、威な情有りて仰首し、築園精舎は、並びに誠に勤めて報徳す。

豈に生平の福宇をして荒毀せしむ者ならんや。

時に神部太平寺上座の義通有り、河東猗氏の人なり。軒冕を糠粃とし、頭陀を景行す。心は江水の傍を惟い、涕を城門の側に下す。以為らく、商人は請□して、解く「禿基を□し。童子は歸心して、猶ほ能く土を捧ぐ。すなはち茲の雅俗を勵し、此の尊容を建つ。同に初地の因を脩め、共に生天の業を樹つ。經營の志有りて、六趣歸依し、誘誨の言を聞き、一時に廻向す。

復た佛弟子王行師等有り、並びに勝縁重徳ありて、善寂資生なり。爰に親朋を率ゐて同じく捨施を開く。爾して其れ已に顯敞に居り、川原秀麗なり。汾河の徳水は、周王出鼎の郷なり。姑射の名山は、唐帝乘鸞の地なり。信に禅居の形勝、福地の良縁なる者なり。若くて乃ち梓匠を徴し、瓌材を選ぶ。居士は其の七返を勞い、國人は其の三利を悦ぶ。牛を牽き石を獻じ、即ち塔を成さしめ、馬を駈け錢を駄し、方に來たりて地に布す。汗漫に平臨し、客堯に直上す。圖丹出秀の竒□、刻鳳雕龍の逸變。危擔曲砌、夜月を懸けて星河を暴き、鏤檻文軒、雲根を桓して兩足に臨む。□□の創造かと疑われ、□子の乗來するが若し。五鳳軒びて逮ばず、八龍翥びて何ぞ仰がん。金人列坐して、光彩を樓中に見る。玉女巡遊して、容輝を閣上に動かす。畧□雙掌の壞寶七重、梵帝諸天の金銀一柱と雖も、豈に年を同じくして語らんや。

又た祥芝數莖、重木に□生ふる有り。□□□□、棟宇に横たわりて初めて開く。車馬の形、康莊を指して動かんと欲す。色は四時の變有り、香は三秀の竒多し。涵徳池中と雖も、何ぞ等級を階す。甘泉宮裏と雖も、未だ禎祥に足らず。感有れば必ず通じ、至誠斯れ名あるに非ざるよりは、則ち何を以て聖造を□し、旁く神心に契う者ならんや。然るに以って道樹ここに

攀てられ、法橋斯に構へらる。瞿曇に意を属して、蓮花は宴坐の居に開き、妙浄に心を歸して、香水は經行の處を灑ぐ。

又た碑上に於いて涅槃變一鋪を造る。多羅樹の下、徒だ生成する有り、偈行宮の中、終に寂滅に歸す。夫の色空患と為すものをして、假説を三身に明らかにせしめ、愛縛迷を成すものをして、忘情を四大に示さしむ。

郷望の文林郎王元敬、将仕郎孫愐、右玉鈴衛護都府左果毅都尉上柱國陽善機、承務郎守寧戎府兵曹參軍趙仁最等、山河の秀氣、唐魏の高風ありて、素朴の光輝を合し、黄裳の元吉を保つ。並びに心を淨域に洒ませて、方に有待の身を捐て、憲を玄門に滌ぎて、共に無憂の樹に坐す。風霜の峻節恐らくは塵容迫らんことを怯れ、龍鳳の高碑、長く寶偈を懸ぐるに託す。八禪寥廓といへども、永く風火の滅を離る。三變須臾といへども、坐して高深の懼を息む。

其の詞に曰く、空有道を為し、天人徳を成す。蘊は無明に在り、不惻に蔵せらる。化は萬類に周り、功は八極を超ゆ。生靈を幽賛し、玄黙を發揮す。縁に随へば則ち契ひ、應ずる有れば能く通ず。五苦心遠く、三明道隆し、駟馳未だ息まず、誘誨何ぞ窮らん。載に明主に因り、廣く玄風を扇ぎ、於あ赫たり我后、重ねて神器を安ず。龍は河圖を出し、龜は洛字を開く。道は得一に待し、心は不二に融ず。既に千年を啓き、還つて十地を疏す。爰に縮服有り、皇恩に答えんことを願ひ、凡士を勸率し、法門を經營し、同じく永夜を超えて、共に重昏を闢く。徳を報ずること何れの所、誠を勤めて言有り。遠近桑梓、周環第宅、刀慄を鏗し、金帛を論すること無し、靈宇に廻向し、勝迹を追思す。室を築き基を開き、金を雕り碧を鏤す。烟雨を平臨し、雲雷に上出す。地は則ち仙化し、人は子来を為す。金扉日のごとく映じ、珠綴星のごとく開く。繡栴龍のごとく躍び、文堯鳳のごとく

廻る。已に神功畢り、旋ち福祐を徴す。徂蹇たる重楸、參差たる三秀。道は生成に契ひ、仁は宇宙に資す。心識は方に絶ち、因縁は必ず就く、旁く匠石に稽へ、遠く雕鐫に□。永く三界を出でて、長く四禪に歸す。岸流れて谷と為り、海變じて田と成るも、天長く地久しく、永く碑立つ。

天授二年二月二十四日、制に准じて置きて大雲寺と為す。三年正月十八日に至り、制に准じて額を廻授して仁寿寺と為す。

同造碑人 趙志遠 楊文達 陳師有 楊行表 楊泉 劉舍郎 雲騎尉胡公習 張師昱 馮福仁 前府史太原王行師 前大州府兵曹參軍趙嘉賓 録事樊元超 景龍感 隊正張志習 陪戎副尉景仁軌 寧戎府參軍趙仁取 姚行褒 楊安都 騎都尉王文端 荊待徵 前府史張諍思 陪戎副尉滑思廉 上護軍楊君武 張思玄 隊正景法意 文林郎王元敬 陪戎校尉楊武貴 隊正范玄慶 文林郎周師廓 景師智 雲騎尉李懷慶 荊智言 上騎都尉張元楷 王玄昉 景思敬 景思徵 王行冲 張公策 楊伏度 帳内趙仁湊 程獻否 陳法咸 景仁則 景智表 已上人等、並為七代父母及見存家 □ □ 恭為亡父母 趙釗為亡父及見存母 楊景休為見存父母 孫行敏為見存父母 當寺修造功德主僧思忠